



5 インストール 完了後の作業

管理ユーティリティのインストール方法、ネットワーク上のPCのセットアップ方法などインストールを完了した後に行う作業について説明しています。これらの作業は運用中にも確認が必要となる場合があります。

管理ユーティリティのインストール

添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMには、Express5800/ftサーバ監視用の「ESMPRO/ServerAgent」、およびExpress5800シリーズ管理用の「ESMPRO/ServerManager」などが収録されています。これらの管理ユーティリティをExpress5800/ftサーバ、またはExpress5800/ftサーバを管理するコンピュータ(管理PC)にインストール・セットアップしてください。

ESMPRO/ServerAgent

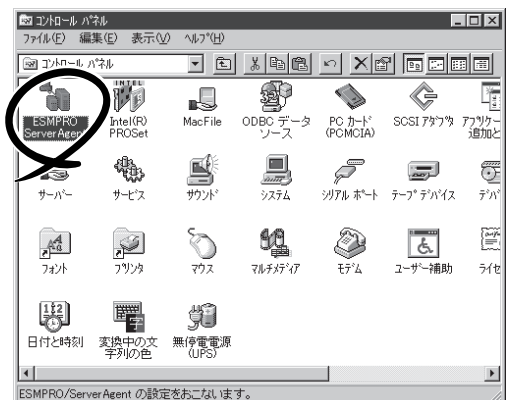
ESMPRO/ServerAgentは、「ftサーバセットアップ」で自動的にインストールされます(ビルド・トゥ・オーダーのハードディスクドライブにも出荷時にインストール済みです)。
[スタート]メニューの[プログラム]にインストールしたユーティリティのフォルダがあることを確認してください。ここでは個別にインストールする場合の手順と注意事項を説明します。



Express5800/ftサーバを連続稼働させるには必ず必要であるためインストールされていることを確認してください。

ESMPRO/ServerAgentの詳細な設定は[コントロールパネル]の[ESMPRO ServerAgent]アイコンをダブルクリックして表示されるプロパティダイアログボックスで変更することができます。

設定項目に関する詳細は、[ヘルプ]をクリックすると表示されるオンラインヘルプを参照してください。



動作環境

ESMPRO/ServerAgentを動作させることができるハードウェア／ソフトウェア環境は次の通りです。

- **ハードウェア**

- ー インストールする装置
Express5800/ftサーバ本体
- ー メモリ
OSの動作に必要なメモリ+25.0MB以上
- ー ハードディスクドライブの空き容量
50.0MB以上
- ー モデム
モデムはページャ通報機能を使用する場合にのみ必要です。ATコマンドを解釈するモデムであること(2400bps以上)。ダイヤル回線ではメッセージを送ることができません。プッシュ回線をご利用ください。

- **ソフトウェア**

Windows Server 2003、Windows 2000

セットアップを始める前に

インストールならびにセットアップの前に必ずお読みください。

ESMPRO/ServerAgentを動作させるためにはTCP/IPとTCP/IP関連コンポーネントのSNMPの設定が必要です。

TCP/IPの設定

TCP/IPの設定については[スタート]メニューから起動するヘルプを参照してください。

SNMPサービスの設定

<SNMPサービスのインストール>

1. [コントロールパネル]の[プログラムの追加と削除]を開く。
2. [Windows コンポーネントの追加と削除]をクリックする。
3. Windows コンポーネントウィザードで[管理とモニタツール]を選択し、[詳細]をクリックする。
4. [簡易ネットワーク管理プロトコル(SNMP)]のチェックボックスをチェックする。
5. [次へ]をクリックする。
ファイルのコピーが始まります。
6. ファイルのコピー終了後、[完了]をクリックする。

<SNMPサービスの設定変更>

1. [コントロールパネル]の[管理ツール]をダブルクリックする。
2. [管理ツール]の[サービス]を起動する。
3. サービス一覧から[SNMP Service]を選択し、[操作]メニューの[プロパティ]を選択する。
「SNMPのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
4. [トラップ]プロパティシートの[コミュニティ名]ボックスに「public」と入力し、[追加]をクリックする。

重要

- ESMPRO/ServerManager側の設定で受信するトラップのコミュニティをデフォルトの「*」から変更した場合は、ESMPRO/ServerManager側で新しく設定したコミュニティ名と同じものを入力します。
 - ESMPRO/ServerAgentからのトラップがESMPRO/ServerManagerに正しく受信されるためには、双方のコミュニティ名が一致する必要があります。
5. [トラップ送信先]の[追加]をクリックし、[IPホストまたはIPXアドレス]ボックスに送信先のESMPRO/ServerManagerマシンのIPアドレスを入力後、[追加]をクリックする。

重要

トラップ送信先に指定されている相手ESMPRO/ServerManagerのIPアドレス(またはホスト名)をマネージャ通報(TCP/IP)の設定で指定した場合、重複していることを警告するメッセージを表示します。同一のESMPRO/ServerManagerを指定するとアラートが重複して通報されます。

6. [セキュリティ]プロパティシートを表示し、以下の設定をする。
 - 「受け付けるコミュニティ名」に手順4で入力したコミュニティを追加
 - その権利を「読み取り、作成」(「READ CREATE」)または「読み取り、書き込み」(「READ WRITE」)に設定
 - 「すべてのホストからSNMPパケットを受け付ける」を選択

重要

- 手順4で「public」以外のコミュニティ名を入力した場合は、「受け付けるコミュニティ名」にもその値を追加してください。
- 「受け付けるコミュニティ名」の権利を「READ CREATE」または「READ WRITE」以外の権利に設定すると、ESMPRO/ServerManagerからの監視ができなくなります。

<特定のホストからSNMPパケットのみ受信するように設定する場合>

「これらのホストからSNMPパケットを受け付ける」を選び、パケットを受信するホストのIPアドレス、ESMPRO/ServerAgentをインストールするサーバのIPアドレス、およびループバックアドレス(127.0.0.1)を指定する。

<特定コミュニティからのSNMPパケットのみ受信するように設定する場合>

SNMPパケットを受け付けるコミュニティ名をデフォルトの「public」から任意の名前に変更する。

重要

- コミュニティ名を変更した場合は、[コントロールパネル]からESMPRO/ServerAgentのコミュニティ変更登録を行う必要があります。コミュニティの変更登録には[全般]タブの[SNMPコミュニティ]リストボックスを使います。
- ESMPRO/ServerManagerからのSNMPパケットをESMPRO/ServerAgent側で正しく受信できるようにするためにはESMPRO/ServerManager側の設定の送信コミュニティ名とESMPRO/ServerAgent側のSNMPサービスが受け付けるコミュニティ名を同じにしてください。

7. ネットワークの設定を終了する。

重要

- ESMPRO/ServerAgentの動作にはSNMPサービスが必須です。ESMPRO/ServerAgentをインストールした後にSNMPサービスを削除してしまった場合は、SNMPサービスをインストール後、ESMPRO/ServerAgentを再インストールしてください。
- 他社製ソフトウェアの中には、SNMPサービスを使用しているものがあります。このようなソフトウェアがインストールされている状態で、SNMPサービスとESMPRO/ServerAgentをインストールすると、ESMPRO/ServerAgentのサービスが起動できない問題が発生する場合があります。このような場合は、いったんSNMPサービスを削除して、SNMPサービスを再インストールしてください。その後で、ESMPRO/ServerAgentと上記他社製ソフトウェアを再インストールしてください。

- ファイアウォールの設定

ファイアウォールの設定が有効となっている場合、SNMPが使用するポート(161/UDP)がブロックされます。

このとき、ESMPRO/ServerManagerとESMPRO/ServerAgentは通信できなくなり、サーバの監視ができません。

以下の手順でポートの開放設定を行ってください。

<Windows Server 2003(サービスパック適用済み)の場合>

1. [コントロールパネル]から[Windows ファイアウォール]をダブルクリックする。

「Windows ファイアウォール」のダイアログボックスが表示されます。

<次ページへ続く>

重要

2. [例外]タブの[ポートの追加]をクリックする。

名前 : snmp
ポート番号 : 161
UDP : 選択

[OK]をクリックしてください。

3. [Windows ファイアウォール]のダイアログボックスを閉じる。

<Windows Server 2003(サービスパック未適用)の場合>

1. [コントロールパネル]から[ネットワーク接続]をダブルクリックする。
2. 使用する接続を右クリックし、[プロパティ]をクリックする。
3. [詳細設定]タブの[設定]ボタンをクリックする。
4. [サービス]タブの[追加]ボタンをクリックする。

サービスの説明 : snmp
ネットワークでこのサービスを
ホストとしているコンピュータ
の名前またはIPアドレス : コンピュータの名前またはIPアドレスを入力
このサービスの外部ポート番号 : 161
UDP : 選択

[OK]をクリックしてください。

5. [ネットワーク接続]ウィンドウを閉じる。

インストール

ESMPRO/ServerAgentはExpress5800/ftサーバのインストール、または再インストールの時に同時に自動でインストールされます。

マニュアルでのインストールするときは、EXPRESSBUILDERのマスターコントロールメニューから行います。

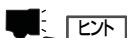


Windows Server 2003のシステムで、[ローカルセキュリティポリシー]で[ユーザ権利の割り当て]の『認証後にクライアントを偽装』の項目から"Administrators"グループを削除している場合、インストール(更新インストール含む)は以下の手順でおこなってください。

- 1) [スタート]―[すべてのプログラム]―[管理ツール]―[ローカルセキュリティポリシー]を起動し、[ユーザ権利の割り当て]の『認証後にクライアントを偽装』の項目に"Administrators"グループを追加する。
- 2) システムを再起動する。
- 3) インストールを実行する。
- 4) 手順1の設定を元に戻す。
- 5) システムを再起動する。

1. ユーザー名「administrator」でログインする。

2. 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。



本体に接続されたCD-ROMドライブまたはLAN Managerで接続されたネットワーク上のCD-ROMドライブでもかまいません(以下、これらをまとめて「CD-ROMドライブ」と呼ぶ)。

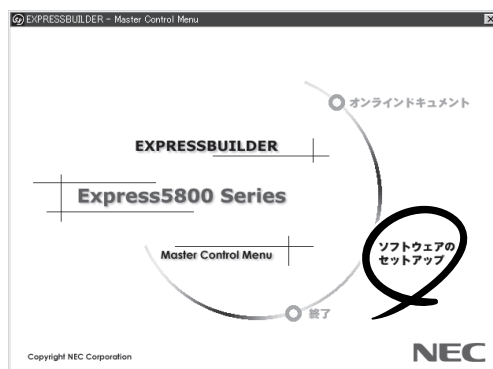


ネットワーク上のCD-ROMドライブから実行する場合は、ネットワークドライブの割り当てを行った後、そのドライブの「MC¥1ST.EXE」を実行してください。エクスプローラのネットワークコンピュータからは起動しないでください。

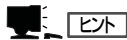
Autorun機能によりEXPRESSBUILDERのマスターコントロールメニューが自動的に表示されます。

3. [ソフトウェアのセットアップ]から[ESMPRO]をクリックする。

ESMPROセットアップが起動し、メインメニューが表示されます。



4. ESMPROセットアップのメインメニューで[ESMPRO/ServerAgent]をクリックする。



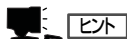
OSの種類に合わせて、選択できるメニューが変わります。(インストールできないものは、グレー表示になります)

重要

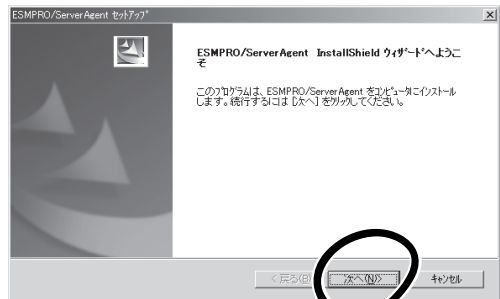
- ダブルクリックでメニューを選択すると同じダイアログボックスを2つ表示することがあります。[終了]をクリックしてどちらか一方のダイアログボックスを閉じてください。
- セットアップの実行中に[キャンセル]をクリックすると、インストールを中止するかどうかをたずねるメッセージが表示されます。メッセージボックスで[中止]をクリックするとインストールを中止できます(メインメニューは表示されたままです)。ただし、途中でセットアップされたファイルの削除は行われません。



5. [次へ]をクリックする。



ESMPRO/ServerAgentがすでにインストールされている場合は「ESMPRO/ServerAgentが既にインストールされています。」というダイアログボックスが表示されます。[更新]をクリックして[次へ]をクリックすると以前のエージェントを削除し、新たにインストールし直します。



6. セットアッププログラムが自動機種判断を行うので、そのまま何も操作しないで待つ。

重要

セットアッププログラムが機種を判断できなかった場合には、ESMPRO/ServerAgentのセットアップを中止します。

7. ESMPRO/ServerAgentのインストール先パス名を入力し、[次へ]をクリックする。

デフォルトではルートパーティションの¥ESMディレクトリの下にESMPRO/ServerAgentのモジュールがインストールされます。特に問題がなければ、このまま[次へ]をクリックしてください。

インストール先を変更したい場合は、[参照]をクリックして希望するインストール先のディレクトリをドライブ名を含むフルパスで指定してから[次へ]をクリックしてください。

8. インストール終了のウィンドウが表示されたら、[OK]をクリックする。

インストールが終了します。インストールしたESMPRO/ServerAgentの機能はOSの再起動後に有効になります。

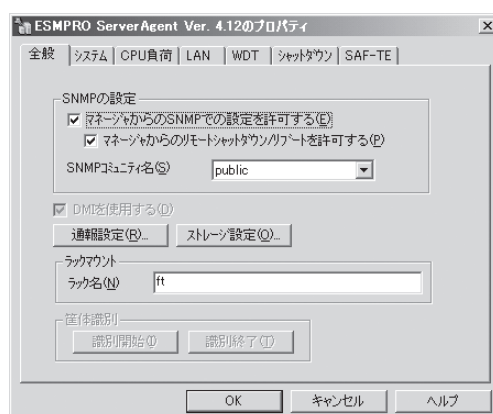
重要

- ESMPRO/ServerAgentのインストール後、SNMPサービスは停止状態になっています。OSの再起動後、SNMPサービスは開始されます。
- ESMPROのインストールが終了してもESMPROセットアップのメインメニューは消えません。他のダイアログボックスに隠れることがあるので注意してください。ESMPROセットアップを終了するときはメインメニューの「終了」をクリックしてください。

ESMPRO/ServerAgentのセットアップ

インストールされたESMPRO/ServerAgentの各種設定は出荷時の設定のままです。[スタート]から[設定]－[コントロールパネル]をクリックして、[コントロールパネル]を開いてください。

[コントロールパネル]の[ESMPRO ServerAgent]アイコンをダブルクリックするとプロパティダイアログボックスが表示されます。ダイアログボックス内の各シートにある設定を使用する環境に合わせてください。セットアップをする上で注意していただきたい点や、知っておいていただきたいことがらについて、別冊のユーザーズガイドの5章の「補足説明」で説明しています。セットアップをする際や、正しく動作していないのでは？と思われるときに参照してください。

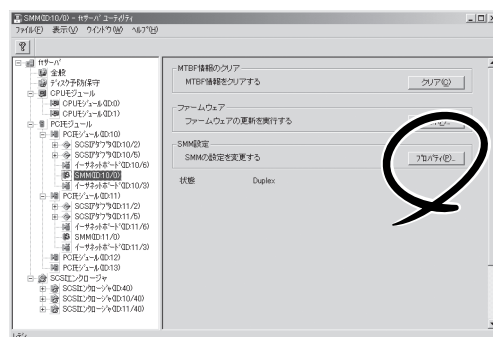


SMMの設定

ftサーバユーティリティを使用してSMMの設定をしてください。

1. [スタート]から[プログラム]－[ESMPRO/ServerAgent]－[ftサーバユーティリティ]をクリックして、ftサーバユーティリティを実行する。
2. [PCIモジュール]ツリーで[SMM]を選択する。
3. [プロパティ]をクリックする。

[SMM設定]ダイアログボックスが表示されます。



4. [IPアドレス]、[サブネットマスク]、[デフォルト ゲートウェイ]を入力して[実行]をクリックする。

他のPCIモジュールツリーにも[SMM]があります。同様に入力してください。



ESMPRO/ServerAgentのアンインストール

ESMPRO/ServerAgentのアンインストールの方法について説明します。



ESMPRO/ServerAgentのアンインストールについて

- システムが完全に起動してからアンインストールを始めてください。
- システム起動直後にESMPRO/ServerAgentのアンインストールを行うと、[サービスの削除中...]のダイアログボックスを表示した状態でセットアッププログラムが止まってしまうことがあります。いったん「アプリケーションの切り換え」などで強制終了してください。その後システムが完全に起動してからアンインストールしてください。
- エクスプレス通報サービスをご利用の場合、ESMPRO/ServerAgentのアンインストールの前にエクスプレス通報サービスを削除してください。エクスプレス通報サービスの削除方法については「エクスプレス通報サービスインストールガイド」を参照してください。
- Windows Server 2003のシステムで、[ローカルセキュリティポリシー]で[ユーザ権限の割り当て]の『認証後にクライアントを偽装』の項目から"Administrators"グループを削除している場合、アンインストールは以下の手順でおこなってください。
 - 1) [スタート]－[すべてのプログラム]－[管理ツール]－[ローカルセキュリティポリシー]を起動し、[ユーザ権限の割り当て]の『認証後にクライアントを偽装』の項目に"Administrators"グループを追加する
 - 2) システムを再起動する。
 - 3) アンインストールを実行する
 - 4) 手順1の設定を元に戻す
 - 5) システムを再起動する。

EXPRESSBUILDERを使用してアンインストールする方法

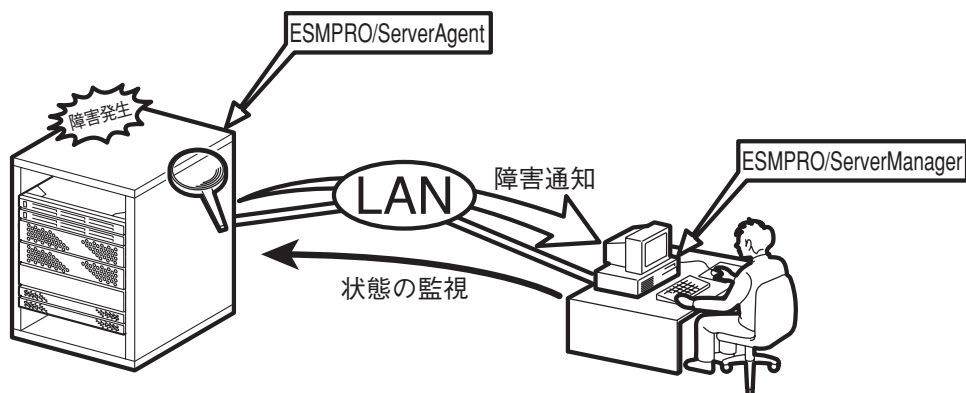
1. 「インストール」(5-7ページ)を参照してESMPROセットアップのメインメニューを表示させる。
2. [ESMPRO/ServerAgent]をクリックする。
[ESMPRO/ServerAgentのセットアップへようこそ]というダイアログボックスが表示されます。
3. [次へ]をクリックする。
[ESMPRO/ServerAgentが既にインストールされています。]というメッセージが表示されます。
4. [削除する]を選択して[次へ]をクリックする。
以上でアンインストールされます。

EXPRESSBUILDERを使用せずにアンインストールする方法

1. [コントロールパネル]から[プログラムの追加と削除]を起動する。
2. [ESMPRO ServerAgent]を選択して[追加と削除]をクリックする。
以上でアンインストールされます。

ESMPRO/ServerManager

Express5800/ftサーバにインストールされたESMPRO/ServerAgentと連携して、Express5800/ftサーバの状態の監視や障害通知の受信をします。



また、ESMPRO/ServerManagerはExpress5800/ftサーバ内の故障したモジュールを交換する際に本体からの論理的なモジュールの切り離しや交換後の論理的な組み込みを操作することができます。

ESMPRO/ServerManagerのインストール方法や運用上の注意事項については別冊のユーザーズガイドを参照してください。

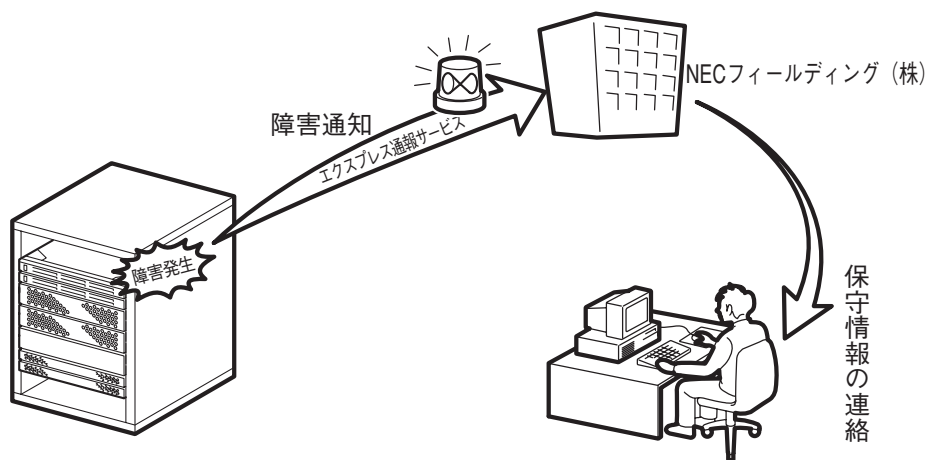
エクスプレス通報サービス

エクスプレス通報サービスは、お使いになるExpress5800/ftサーバを保守サービス会社が随時その状態を監視し、何らかの異常を検出したときにお客様に通報するサービスです。



ご利用には別途、保守契約が必要です。

ヒント



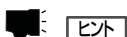
エクスプレス通報サービスの契約を結んでいる場合は、別冊のユーザズガイドを参照して、サービスを受けるためのセットアップをしてください。

また、エクスプレス通報サービスのインストールに関しては、インストレーションガイドを参照してください。

ネットワーク上のPCのセットアップ

Express5800/ftサーバとTCP/IPプロトコルを利用して通信をするWindows Server 2003、またはWindows XP/2000/NT 4.0、Windows 95/98/Meで動作するコンピュータをお持ちの場合には、すべてのコンピュータにおいて、以下の設定をしてください。

- ① 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMまたはft制御ソフトウェアUPDATE CD-ROM内の¥STRATUS¥LANG¥JP¥PROG¥FTREG.EXEを任意のディレクトリにコピーする。



ft制御ソフトウェアUPDATE CD-ROMは、ft制御ソフトウェアを最新にアップデートするものであり、装置に添付されていない場合があります(装置出荷時点で「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに含まれるソフトウェアが最新の場合には、添付されません)。

- ② コマンドプロンプトを起動し、上記ファイルをコピーしたディレクトリを入力して次のコマンドを入力する。

FTREG.EXE

この設定は、Express5800/ftサーバ起動直後およびCPUモジュールの再組み込み(二重化処理)時にExpress5800/ftサーバとLANプロトコルで接続されているコンピュータとの間の接続が無通信状態となり、タイムアウトを起こす可能性を回避するのものです。Express5800/ftサーバ上でWindows Server 2003が動作するシステムにおいて、起動直後、およびCPUモジュールの再組み込み時に発生する無通信時間は、搭載のメモリサイズおよび動作中アプリケーションのメモリの利用状況により大きく変動します。

無通信時間の最小時間は、搭載のメモリサイズにかかわらず瞬時であり、無通信の対象にはなりません。最大無通信時間は搭載のメモリサイズ別に以下になります。

メモリサイズ	無通信時間
2GB	約 8秒
4GB	約16秒
8GB	約30秒
12GB	約44秒

この設定プログラムでは、Windowsの次のレジストリを設定します。

- **Windows XP/Windows NT/Windows 2000/Windows Server 2003の場合**

レジストリキー:

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥Tcpip¥Parameters

値: TcpMaxConnectRetransmissions

タイプ: REG_DWORD

設定値: 5

値: TcpMaxDataRetransmissions

タイプ: REG_DWORD

設定値: 8

値: TcpMaxConnectREsponseRetransmissions

タイプ: REG_DWORD

設定値: 5

- **Windows 95/98/Meの場合**

レジストリキー:

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥VxD¥MSTCP

値: MaxConnectRetries

タイプ: String

設定値: 5

値: MaxDataRetries

タイプ: String

設定値: 8

ft制御ソフトウェアのバージョン確認方法

フォールト・トレラントを実現している各種ソフトウェアの集合であるft制御ソフトウェアのバージョンを確認する方法について説明します。なお、Express5800/ftサーバに装置を増設する場合など、動作中のft制御ソフトウェアのバージョンを確認する必要がある場合に実施していただくことになります。

バージョン確認には、専用のツールが用意されています。下記の手順に従ってバージョンを確認してください。

1. 管理者(Administrator)権限のあるユーザーでログインする。

2. 添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

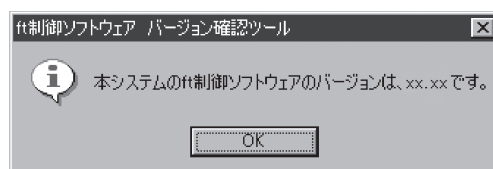
「Express5800/ftサーバシリーズft制御ソフトウェア UPDATE」CD-ROMがある場合は、そのCD-ROMをセットしてください。

3. 格納されているバージョン確認ツールを実行する。

ツール名: ftVerChk.exe

格納場所: <CD-ROMドライブ>:\%FTSVTOOL%\VERSION

動作中のft制御ソフトウェアのバージョンが表示されます。



以上でバージョンの確認は完了です。

Windows サービスパックの適用

Windows サービスパックの適用に関する注意

Express5800/ftサーバは、本装置に添付されているサービスパック以外は、お客様の判断で適用しないでください。

サービスパックを適用した場合には、サービスパックに対応するMicrosoft HotFixを合わせて適用してください。



- 本装置添付以外のサービスパックを適用したい場合は、Express5800/ftサーバPP・サポートサービスをご契約の上、Express5800/ftサーバPP・サポートサービスのWebページで適用状況を確認し、Express5800/ftサーバにサービスパックを適用してください。
- Express5800/ftサーバに適用されるサービスパックは、特別なものではありません。標準のWindows Server 2003 Service Packと同じです。Express5800/ftサーバにおいて、サポート対象となるサービスパックのみ本装置に添付されています。

Windows サービスパックの適用

Express5800/ftサーバへは、以下の手順でサービスパックを適用してください。

Express5800/ftサーバは「初めて電源をONにするときのセットアップ」、「OSを再インストールするときのセットアップ」(ftサーバセットアップ)、システム修復時の「システムのアップデート」のいずれの場合もサービスパックが自動でインストールされることはありません。

サービスパックの適用が必要な場合は、以下の手順でサービスパックを適用してください。

本装置に添付されているサービスパック以外を適用する場合は、Express/ftサーバPP・サポートサービスのWebページで適用状況を確認し、以下の手順でExpress5800/ftサーバにサービスパックを適用してください。

Windows サービスパック適用方法



Windows サービスパック適用の際は、電源・スクリーンセーバの設定にご注意ください。Windows サービスパック適用時に以下の設定が有効となっている場合は、処理が中断する場合や正しく適用できない場合があります。各設定を無効(チェックボックスをオフなど)にしてからWindows サービスパックを適用してください。Windows サービスパック適用後に必要に応じて再設定を行ってください。

- スクリーンセーバの設定
- 電源設定(モニタの電源を切る・ハードディスクドライブの電源を切る)
- 休止状態(休止状態を有効にする)

管理者権限(Administrator)のあるユーザでシステムにログオン後、適用してください。

- 装置添付のサービスパックを適用する場合

1. 装置添付の「Windows Server 2003 Service Pack CD-ROM」をCD-ROMドライブに挿入する。

2. 自動表示される説明に従い、適用する。

説明が自動表示されない場合には、エクスプローラよりCD-ROM装置を右クリックし、「自動再生」を選択する。

3. システムを再起動する。

- 装置添付以外のサービスパックを適用する場合

1. Express5800/ftサーバPP・サポートサービスのWebページで適用状況を確認し、MicrosoftのWebサイトよりサービスパックを入手して適用する。
2. システムを再起動する。

Windows サービスパック適用後の作業

Windows サービスパック適用後は、ユーザズガイド(セットアップ編)「Microsoft HotFixの適用」(5-18ページ)を参照し、動作中のシステムに適したMicrosoft HotFixの適用を行ってください。

Microsoft HotFixの適用

Express5800/ftサーバにWindows サービスパックを適用した場合は、以下の手順でMicrosoft HotFix (Windows OSのQFE)の適用を行ってください。

Express5800/ftサーバでは、動作に必須となるMicrosoft HotFixを適用する必要があります。動作中システムのサービスパックの適用状態を調査し、動作に必須となるMicrosoft HotFixの適用を行います。



重要

- Windows サービスパックを適用した場合(再適用も含む)は、必ずMicrosoft HotFixの適用を行ってください。ここで適用されるMicrosoft HotFixは、Windows OSに関連するすべての修正モジュールを適用するものではありません。Express5800/ftサーバとして、動作に必須となる最小限の修正モジュールを適用します。
- 「初めて電源をONにするときのセットアップ」、「OSを再インストールするときのセットアップ」(ftサーバセットアップ)を行った場合は、サービスパック未適用環境向けMicrosoft HotFix(Pre-SP1 QFE)が適用されています。セットアップ後にサービスパックの適用を行わない場合は、Microsoft HotFixの適用は必要ありません。(適用した場合も問題ありません)
- 「システムのアップデート」を行った場合は、動作中のシステムに適したMicrosoft HotFixが適用されます。アップデート後にサービスパックの適用を行わない場合は、Microsoft HotFixの適用は必要ありません。(適用した場合も問題ありません)

Microsoft HotFix適用方法

管理者権限(Administrator)のあるユーザでシステムにログオン後、適用してください。

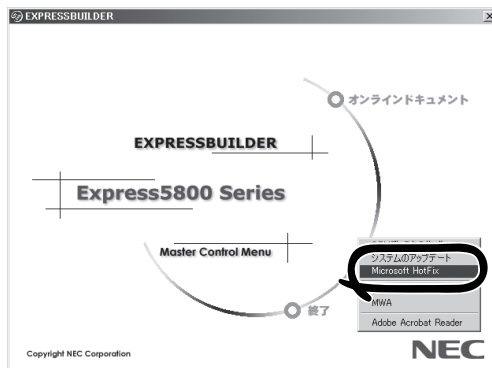
- 「Express5800/ftサーバシリーズ ft制御ソフトウェア UPDATE CD-ROM」がない場合 (「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを使用する場合)

1. 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

AutoRun機能によりEXPRESSBUILDERのマスターコントロールメニューが自動的に表示されます。

2. 「ソフトウェアのセットアップ」から「Microsoft HotFix」をクリックする。

Microsoft HotFixのセットアップが起動します。画面の指示に従って適用してください。



重要

動作中のシステムに適用が必要なMicrosoft HotFixが無い場合には、以下のメッセージが表示されます。動作に問題はありません。

Windows Server 2003 Service Pack 1の初期対応時点では、適用が必要なMicrosoft HotFixは登録されていません。

動作中のExpress5800/ftサーバに必ず適用が必要なMicrosoft HotFixはありません。
本物件には該当するMicrosoft HotFixは登録されていません。
処理を終了します。

3. システムを再起動する。

● 「Express5800/ftサーバシリーズ ft制御ソフトウェア UPDATE CD-ROM」がある場合

1. 「Express5800/ftサーバシリーズ ft制御ソフトウェア UPDATE CD-ROM」をCD-ROMドライブにセットする。
2. エクスプローラまたはスタートメニューの「ファイル名を指定して実行」より以下を実行する。

Microsoft HotFixのセットアップが起動します。画面の指示に従って適用してください。

CD-ROMドライブ:¥QFE¥SETUP.BAT

重要

動作中のシステムに適用が必要なMicrosoft HotFixが無い場合には、以下のメッセージが表示されます。動作に問題はありません。

Windows Server 2003 Service Pack 1の初期対応時点では、適用が必要なMicrosoft HotFixは登録されていません。

動作中のExpress5800/ftサーバに必ず適用が必要なMicrosoft HotFixはありません。
本物件には該当するMicrosoft HotFixは登録されていません。
処理を終了します。

3. システムを再起動する。

Windows Update(セキュリティパッチ適用)について



Express5800/ftサーバは「初めて電源をONにするときのセットアップ」、「OSを再インストールするときのセットアップ」においてWindows Updateの自動更新サービス(Automatic Updatesサービス)は無効となっています。Windows Updateの自動更新を有効にされる場合は以下の注意をよく確認し、スタートメニューの「管理ツール」-「サービス」より「Automatic Updates」の「スタートアップの種類」を自動または手動に変更後、サービスを開始させてご利用ください。

Express5800/ftサーバにおいて、Windows Update機能を利用してWindowsモジュールの更新を行う場合には、各更新の内容を確認した上で実施してください。

Express5800/ftサーバにおけるセキュリティパッチ・QFEの評価状況は、Express5800/ftサーバPP・サポートサービスのWebページにて公開されています。Express5800/ftサーバでのOSに関する更新については、Express5800/ftサーバPP・サポートサービスのWebページにて公開されているセキュリティパッチ・QFEのみの適用を推奨しています。

Express5800/ftサーバでのセキュリティパッチ・QFEの評価についてMicrosoft社が公開するセキュリティパッチについて、その重要度によりExpress5800/ftサーバPP・サポートサービスにおいて、以下のように対応しています。

- ー 重要パッチ(弊社にて重要で至急適用が必要と判断したもの)

パッチが発行され次第評価を実施しアナウンスを行います。

過去の例ではNimdaワームなど危険度が高いものは至急に評価を実施します。

- ー セキュリティロールアップパッケージ(SRP)

SRPが発行されるのに伴い評価を実施し、Express5800/ftサーバPP・サポートサービスのWebページにてアナウンスを行います。

- ー その他のパッチ

Windows OS標準機能に関するセキュリティパッチは定期的にまとめて評価を実施し、Express5800/ftサーバPP・サポートサービスのWebページにてアナウンスを行います。

Express5800/ftサーバPP・サポートサービスのWebページに掲載されていないOSに関する更新について、疑問点・不明点がある場合には、Express5800/ftサーバPP・サポートサービスにお問い合わせください。